

創造へ、そして失敗

かく期（ちぎ）りて、すなはち詔りたまひしく、「**汝は右より廻り逢へ。我は左より廻り逢はむ**」とのりたまひて、約（ちぎ）り竟（を）へて廻りたまふ時に、伊耶那美の命まづ「あなにやし、えをとこを」とのりたまひ、後に伊耶那岐の命「あなにやし、え娘子（をとめ）を」とのりたまひき。おのもおのも
のりたまひ竟（を）へて後に、その妹に告りたまひしく、「**女人（おみな）先だち言へるはふさはず**」とのりたまひき。然れども隠処（くみど）に興（おこ）して子水蛭子（みこひるこ）を生みたまひき。

／解説／

【汝は右より廻り逢へ、我は左より廻り逢わむ。】

伊耶那美の命は女性で「身切り」より廻り、伊耶那岐の命は男性で「霊足り」より廻り、その女陰と男根、成り合はぬ所と成り余れる所を交合することによって現象子音言霊が生れます。その際、岐の命は八父韻の中のチキシヒの四韻を、美の命はイミリニの四韻を分担する事となります。

【女人先だち言へるはふさはず】

伊耶那美の命が「あなにやし、えをとこを」、「あなたは愛すべき良き男性です」と伊耶那岐の命より先に発言したのは適當ではない、の意。これは男尊女卑の思想を言ったのではなく、飽くまで子音創生の言葉の発声に関する意味であります。子音を生むに際して、母音を先にして父韻を後にしたのは、子音は生れない、だから適當ではないと言ったのです。父韻キに母音アで子音カが生れます。逆に母音アを先にして父韻キが続けばカの単音は生れない事と言ったのであります。

【然れども隠処に興して子水蛭子を生みたまひき。】

「女人先だち言へるはふさはず」と母音を先に、父韻を後に発音したのでは正統な現象子音を生むのに適當ではない、と知りながら「然れども隠戸に興して水蛭子を生んだ」というのです。言霊学上重要な子音創生という時、何故適當ではない方法で正統な現象音ではない水蛭子を生む事などを文章に載せたのでしょうか。

水蛭子とは如何なることを言うのでしょうか。それは霊流子（ひるこ）とも書けます。霊（ひ）である父韻が流れてしまって現象音が出来ない、という意味です。蛭（ひる）に骨なし、と謂われるように、霊音（ほね）である父韻が役に立たぬ、の意ともとれます。実際には言霊子音にならぬものをどうして取上げたのでしょうか。それは母音を先にし父韻を後にすると、現象は生れないが、そういう心の操作を実際に行う人間の行動も起り得ることを太安万侶は知っていたからであります。それは何か。

言霊の原理が世の中から隠没した後、言霊学に代わる人類の精神の拠所となる各種の個人救済の小乗信仰の事をいうのであります。言霊の原理は人類歴史創造の規範です。その原理が隠されて、その間に現われた個人救済の信仰、例えば仏儒耶等の信仰は、「人間とは何か」「心の安心とは」「幸福とは」等々、人間の心の救済は説いても、人類の歴史創造についての方策に関しては何一つ言挙げしません。否、言挙げする事が出来ません。現在の地球上の人類生存の危機が叫ばれている昨今、世界の宗教団体から何一つ有効な提言が出されない事がそれを良く物語っています。

世界の大宗教がその点に盲目的な原因は、人間の生命創造の根本英智である言霊ハ父韻と、それによって生れる現象の要素である三十二の子音言霊の認識を全く欠いているからに他なりません。しかし言霊原理隠没の時代には、信仰心に見えるように生命の实在である宇宙（空）とか、救われを先にし、社会・国家・世界の建設等の創造を捨象してしまう事も、即ち母音を先にし、父韻を後にする発声を示す精神行為も時には必要となるであろう事を、古事記の撰者太安万侶は充分知っていたからに他なりません。

「隠処に興して」の隠処とは「組むところ」の意。頭脳内で言葉が組まれる所のこと、組む所は意識で捉えることが出来ない隠れた所でありますので、隠処と「隠」の字が使われています。では実際には言葉は何処で組まれるのでしょうか。それは子音創生の所で明確に指摘されます。言霊学が人間の言葉と心に関する一切を解明した学問であるという事は此処に於ても証明されるのであります。